2019 年度

活動報告及び決算報告書

JLMM

一般社団法人　JLMM

2019 年度 日本カトリック信徒宣教者会/JLMM 活動報告

1．2019 年度の動きと成果（概要）

派遣地における活動

カンボジアのプノンペン市では、子ども達のための識字・栄養・衛生教育、母親たちのための栄養改善・保健衛生・住環境セミナー、収入創出プログラム、託児所の運営などの活動を継続実施した。
コミュニティヘルスワーカーの意欲向上と収入創出のために生産しているコーヒードリップパックは、日本での輸入手続きが可能となったため、日本国内での販売が実現した。

コンポンルアン水上村では、井手司が任期満了のため 7 月末に活動を終了、8 月に帰国した。井手が担当していた業務については、バタンバン教区が引き継ぐことになった。

2020年2月以降、新型コロナウイルスの拡大が深刻となり、3月中旬からカンボジアでの休校措置に伴い、JLMM カンボジアの「子どもの家」など全ての活動を休止した。代表の浅野美幸は3月31日に緊急帰国した。

派遣候補者募集と研修、派遣

派遣候補者が無かったため、研修を実施しなかった。
2020年度の派遣候補者募集に際しては、6 名が選考に合格した。

スタディツアー（継続と新規企画）

恒例の一般公募のカンボジアスタディツアー（春と夏）、上智福岡高等学校スタディツアーに加え、イエズス会高校4校の教員を対象とした「宗教倫理研修会ツアー」を実施し、高校によるツアー企画の今後の可能性を広げた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、2月・3月に予定していた JLMM 企画のスタディツアー、望洋庵（京都教区）スタディツアーは中止となった。

活動紹介とラチャナ商品紹介（教会に向けた広報の拡充）

JLMM の活動広報の拡充のため、昨年に引き続き主に首都圏のカトリック教会における「活動紹介とラチャナ商品紹介」を企画・実施した。ミサ後に短い活動紹介とハンディクラフトの紹介を組み合わせて実施することにより、多くの方々に関心を持っていただくことができた。東京、横浜、大阪の3教区で実施した。

映画上映イベント「シネマ★ミシオ」の開催

ドキュメンタリー映画を通して世界の現状について学び、JLMM の活動支援者層の拡大を目的に、今年度から新規イベントして「シネマ★ミシオ」を毎月、全10回開催した。

団体名の改称

定時社員総会において、従来の「一般社団法人　日本カトリック信徒宣教者会」という団体名を「一般社団法人　JLMM」、通称を「日本カトリックミッショナリームーブメント」と改称した。同時に定款において従来の「信徒宣教者」は「ミッショナリー」と表現することとなった。団体名の改称に伴い、定款を改定した。

ホームページのリニューアル

団体名称の変更に伴い、ホームページを全面的に改編し、タブレット端末やスマートフォンでも閲覧できる仕様に改善した。

カリタスジャパンとの連携（災害発生時の支援システム構築協力）

カリタスジャパンから要請を受け、今後起こりうる大災害発災時にカトリック教会が被災者支援システムを迅速に構築できるよう、「災害対応マニュアル」の編集に協力した。

連携・協力関係の拡充

2002年からカンボジア・コンポンルアンにおける活動を継続支援している「カンボジア福祉基金藤沢」と協議し、コンポンルアンへの派遣休止に伴い、今後はプノンペンでの活動で連携することになった。
プノンペンにおける活動を支援している JOMAS に対する活動報告と連携に関する協議を行った。

代表理事、理事の交代

小林誠代表理事の辞任の意向を受け、臨時理事会にて松村繁彦代表理事が就任した。
日本カトリック総長管区長会に理事推薦をお願いしている瀬戸高志理事の後任として、村上芳隆理事が定時社員総会にて選任された。

各国派遣状況及び会員数は以下のとおりである。

2020年3月31日現在の派遣国と派遣者
　　カンボジア…2名
　　計　1ヶ国　2名
2020年3月31日現在の正会員数　10名（名簿は後述）
2020年3月31日現在の賛助会員数　2，463（個人・団体）
　内訳
　　個人…　1，197、教会…　338、修道会…　595、学校…　188、その他…　145

成果

長年の課題であった団体名の改称を実現させることができた。
「シネマ★ミシオ」など、新たな国内企画を立ち上げ、協力者層を拡大することができた。
2020 年度の派遣候補者の募集に際し、6 名の候補者を得ることができた。

課題

カンボジアのコンポンルアン水上村での活動が休止となり、今後どのような関わりができるか模索する必要がある。
新型コロナウイルス感染拡大に伴う派遣者の緊急帰国によって、JLMM カンボジアのローカル運営化が加速するが、今後の運営面・資金面での連携の方法を検討する。

2．各国活動

(1) カンボジア

1992年4月より内戦後の復興に取り組むカンボジア人、帰還難民の支援をきっかけに信徒宣教者（ミッショナリー）の派遣が開始された。バッタンバン省にて児童養護施設におけるソーシャルワーク支援、洋裁技術支援・ハンディクラフト製作による女性の自立支援、スヴァイリエン省にて試験農場、コンポンスプー省では幼稚園支援など、カンボジア現地 NGO を通してのコミュニティ開発支援を行ってきた。
1996年6月14日カンボジア政府に JLMM カンボジアとして国際NGO登録を行った。
1998年1月から、カリタス・カンボジアとの協働によりプノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ごみ集積

場周辺に暮らす人々のための生活向上支援、2001年12月よりバッタンバン知牧区内プルサート省コンポンルアンの水上村における住民との関わりを開始した。

また、2007年6月より、シェムリアップ州クナ・トゥメイにおいてカトリック教会が地域の子ども達に向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始した。

さらに、2008年7月より、バンテイミエンチャイ州タオム村でカトリック教会が地域の子ども達に向け行っている子どもセンターの識字教室などの活動支援を開始。その後、シェムリアップ教会の会計管理等の活動支援も開始。

2002年度より浅野美幸（横浜教区）、2013年度に井手司（福岡教区）、2017年度に洞江有実子（仙台教区）を派遣した。

プノンペン市郊外のステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす人々のための生活向上支援を浅野と洞江が担当し、トンレサップ湖上の村コンポンルアンの活動を井手が担当した。

井手は7月27日に任期終了し、2019年8月26日に帰国した。

新型コロナウイルス感染拡大のため、浅野が2020年3月31日に緊急帰国した。

Ⅰ プノンペン市ステンミエンチャイ地区ゴミ集積場周辺に暮らす家族のための生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プノンペン市郊外ステンミエンチャイ地区ルッセイ村

ルッセイ村には、ゴミ集積場でゴミの中からリサイクルが可能な有価物を拾い集め、リサイクル業者に売り、生計を立てている家族が多く住んでいる。住民の多くは、以前地方で農業を営んでいた人たちだが、グローバリゼーションの影響などにより、家族を養うための十分な食料や生活物資を購入するための現金を得ることが出来ずに都会に出てきた人たちである。

村では、劣悪な生活環境ため栄養不良や皮膚疾患が多くみられる。また、高利貸しへの借金返済にも苦しんでいる。子どもは家族を助ける労働力とみなされ、親は子どもの教育にあまり熱心ではない。子ども達も家族を助けたい思いからゴミ集積場で働いている。子ども達は、小学校に入学できても、基礎的生活習慣や能力不足により落第や退学する子どもが多くいるのが現状である。

2009年7月にステンミエンチャイのゴミ集積場は、ゴミの収容範囲を超えたため閉鎖され、プノンペン市の全てのゴミはダンコー地区にできた新ゴミ集積場に集め捨てられている。住民たちは以前から住んでいるルッセイ村に留まり、そこから毎日ルモー（バイクで牽引する乗り合いの搬送車）で新ゴミ集積所へ通勤している。住民たちの移動がないため、JLMM ではステンミエンチャイゴミ集積場の閉鎖後も、活動を継続している。

2019年度は、次のとおり事業を実施した。事業実施に関する活動資金の一部は、大阪大司教区「カンボジアの日」、海外邦人宣教者活動援助後援会（JOMAS）、公益信託今井記念海外協力基金、Kids & Smile、山口ザビエル教会、カトリック菊名教会からの支援を受けた。

2020年3月中旬にコロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校となってからは、「子どもの家」や託児所、セミナーなど集会を伴う全ての活動を一時休止し、事務・運営に関する業務のみ時間を短縮して行った。

2. 活動

1）「子どもの家」活動

貧困や家庭の事情で小学校に通学できない子どもや落第、退学が多い対象地域での就学前の子どもたちへの幼児教育、衛生教育、識字教育、栄養教育を実施した。基礎的社会能力や知的能力を向上させる体験の場を月曜日から金曜日の午前中、能力別に分かれた3クラスで週5日8時半から11時まで運営した。

生徒数は常時70～90名。2019年度は17名の子ども達が小学校に入学した。

a)「大きな子どもの家」

対象年齢：クメール語子音の読み書き、1から10の数字が分かる6歳から12歳の児童20人。

栄養・衛生教育、クメール文字の読み書き、足し算や引き算、工作、ぬり絵、お絵かきなどを学ぶ。

b)「小さな子どもの家」

対象年齢：クメール語子音の読み書きができない児童30人。

栄養・衛生教育、識字教育、工作、塗り絵、お絵かき、歌などを学ぶ。

c)「小さな小さな子どもの家」

対象年齢：3歳から5歳の幼児30人。

パズルやお絵かき工作など遊びが中心。

「小さな小さな子どもの家」の活動

「小さな子どもの家」の活動

① スタッフと先生やアシスタントとの定期ミーティング

「子どもの家」が小学校入学への架け橋として、充実した教育を実施できるよう、スタッフと先生やアシスタントと毎月末に定期的なミーティングを行った。

成果

先生が抱えている問題を分かち合うことによって、アシスタントとスタッフが協力しあうようになった。

課題

限られた時間なので予定や課題の周知が中心となった。子ども達の情操を豊かに育むための教材作りと指導力の向上を目指していきたい。

② 家庭訪問

教育の大切さを保護者に理解してもらうため、7歳以上で小学校に入学していない子どもの家庭を訪問し、小学校進学の重要性を伝えた。また、小学校入学の手続きの周知を図った。

成果

家庭訪問をすることによって子どもたちの家庭環境が理解できた。

課題

家庭の事情で子どもを学校に行かせたがらない親もいる。「子どもの家」が人生最後の教育機関になってしまう子どもがいるので、引き続き足し算や識字教育に力を入れていきたい。

大きな子どもの家

遠足

③ 栄養プログラム

栄養失調や発育不全の子どもたちの栄養改善を行うため、海外邦人宣教者活動援助後援会(JOMAS)の助成により、肉・魚・卵・野菜など栄養バランスを大切にしながら栄養価の高い食事を子どもたちに提供した。また子どもたちの栄養補給として手作りの豆乳を学びにきた子どもたち全員に毎日配布した。野菜が嫌いな子ども達のために、授業でも野菜の身体における働きや食の大切さを子どもたちに指導した。

今年度より今まで廃棄していたおから1kgを給食に活用し、子どもたちが健康な身体を維持できるように努めた。

成果

今までは栄養担当者に献立を一任していたため同じような献立になっていたが、今年度よりスタッフたちが話し合って毎日の献立を考えるようになったため、バラエティ豊かな給食を子どもたちが食べられるようになった。

課題

カンボジア料理は一般的に味が濃いため、減塩にも努めていきたい。

給食

おから入り野菜炒め

④ 図書館の利用

図書館の部屋を使いやすいように整備し、授業のカリキュラムに図書館での読書の時間を設けた。

成果

たくさんの本を手に取れるような環境を作ったため、子どもたちの本に接する時間が増えた。

また、使いやすいよう部屋を整備したことで以前よりも読書後に本を片づける子どもが増えた。

課題

本を玩具変わりに遊んでしまう子どももいるので、本の読み聞かせの時間も増やしていきたい。綺麗に図書館を利用できるよう定期的に本の整理をするとともに、子どもたちが様々なジャンルのものを手にすることができるよう本の配置も工夫していきたい。

2） 医療サービスと家庭訪問

2019年度は28件の緊急援助を行った。

親が病気や怪我で就労できない家庭にお米や卵などの支給（3件）、病院までの交通費（3件）、治療費や薬代等（15件）、バイク修理（6件）、家屋修理補助（1件）を行った。

家庭には医薬品が無いため、怪我をした住民に対して、傷の悪化を予防する簡単な傷の手当てをし、あわせて手当ての方法を指導した。

成果

緊急時に食料や治療費を援助することができ、住民たちは高利貸しからお金を借りず高い利子の返済に苦しまずに済んだ。

課題

カンボジアは医療保険がないため、病気になったら高額な医療費を払わなければならない。衛生的な

生活をおくることで病気を予防できるので、住民たちの保健衛生の意識向上に努めていきたい。

屋根修理補助

病人支援

3） 収入創出プロジェクト

① 屋台プロジェクト

屋台の仕事で衛生的でかつ、安定的な現金収入を得て、家庭内の医療や子どもの教育を充実させるために、今年度も屋台プロジェクトを継続した。

（1） ロッティ

ゴミ集積場での有価物収拾で生計を立てている人たちに屋台の貸し出しを行う「屋台プロジェクト」を継続し、クレープ菓子「ロッティ」の販売を学校周辺で行った。今年度は屋台プロジェクトに参加していた2名が、体調を崩し家で休養したため、独立した1名が自身の収益からバイクを購入し屋台を牽引し「ロッティ」を販売した。

（2） ハッピーアイス

秋田県で「ババヘラアイス」販売を行う進藤冷菓の技術指導を得て、カンボジアの原材料を使ったアイスの製造・販売を2013年2月に開始し、今年度も継続した。研修を受けた販売員に屋台を貸し出すほか、アイスを低価格で卸し、出店道具、屋台の修理等の支援も行った。販売場所を拡大し、より多くの就労者を増やすため、移動用トラックを導入し、販売員をプノンペン市内に送迎した。

7名が学校前などで「ハッピーアイス」を販売していたが、2020年3月中旬にコロナウイルス感染拡大防止のための臨時休校となってからは、販売を休止している。

② ドリップバックコーヒー

母親たちに仕事を提供していくために、今年度もカンボジア産コーヒーを使ったドリップパックの販売を継続して実施した。 カンボジア国内では、プノンペンのイオンモールのお土産屋やシェムリアップのお土産屋さんでドリップバックコーヒーを販売し、日本ではバザーなどでの販売を今年度から開始した。

ハッピーアイス販売

子どもを連れてハッピーアイス販売

成果

ゴミ集積場で働いていた母親たちにアイス販売の仕事を提供することができ、借金を返済することができるなど収入増加がみられた。

課題

学校の敷地内でのアイスの販売が禁止されたため売り上げが減っている販売員がいる。付加価値をつけるなどして売り上げを伸ばしていきたい。

4） プノンペン市郊外・貧困地域における女性の生活向上プログラム

地域の母親を対象とした包括プログラムを今年度も継続した。家庭を守る母親が「保健衛生」、「栄養改善」に関して知識を深め、実践することにより、家庭から地域全体の生活向上を図ることを目的としている。

① 母親ミーティング

地域の母親を集め、プログラムの実施経緯や内容説明を行うとともに、母親が抱える問題や課題などを話し合うミーティングを行った。

日付	参加数	内容
9月7日	93人	*「健康祭」を実施。 おからの効用を紹介し、カンボジア人の食習慣に合った味に開発したおから料理4品の試食会を実施。おから専門家高橋典子さんが来訪され、「食と健康」についてお話をしていただく

＊コロナウイルス感染拡大防止のため3月に予定していた母親ミーティングは中止した。

母親ミーティング

母親ミーティング

成果

地域住民を対象に実施した「健康祭り」で、今まで廃棄していたおからが栄養価の高い食材であり、美味しく食べられることを知った母親たちは、大変おからに興味を持ってくれた。

課題

今回参加することができなかった母親たちには、栄養セミナーを通して栄養価の高いおからの効用を繰り返し伝えていき、おからの知識の定着を図っていきたい。

② お母さんセミナー

母親を対象とした家庭の生活環境改善に必要な「保健衛生」・「栄養改善」・「住環境」のセミナーを継続し下記の内容で実施した。文字の読めない母親にも分かりやすい教材を用意。スタッフ2名でお母さんセミナーを実施した。

(1) 栄養改善セミナー

公益信託今井記念海外協力基金の助成により「生活習慣病の予防と改善のための『おから』を使った栄養食の開発と普及プロジェクト」を4月から実施した。

1-1 現地の食習慣に合った「おから食」の開発と普及

a) 生活習慣病予防セミナーと健康診断の実施、おから専門家高橋典子さんを招聘。スタッフとの協働で、現地食習慣に合ったおから食20品を開発した。カンボジア人にとってなじみの調味料で、魚の発酵食材プロホック、フォーッ、カピなどを使いカンボジア人好みの味を試みた。

b) おから専門家カンボジア派遣2回目で、スタッフへのおから料理教室を実施した。おから料理8品の作り方をスタッフ3名に伝授した。

c) おからを地域住民に紹介するために「健康祭り」を開催した。

d) 栄養価の高いおから食を家族に提供できるように、料理教室を母親センターで実施した。母親たちは身近になる安価な食材を使いバランスの取れたおから食8品の献立を学んだ。

1-2　生活習慣病予防・改善セミナーと健康診断の実施

a)　スタッフ5名が糖尿病、高血圧、心臓病、及び血圧の測り方を医療 NGO ジャパンハートから学んだ。

b)　文字が読めない母親たちに絵など視覚的教材を活用し、セミナー参加者にとって解りやすい内容を心がけた教材を作成した。

c)　住民たちの住居前で少人数のグループを対象に、10分から15分のセミナーを実施した

d)　セミナー時に定期的な健康調査（BMI と血圧測定）と個人相談会を実施した。検査結果を健康診断検査結果表に記入し、自分の健康状態に関心を持ってもらい、生活習慣や食習慣の改善を促した。

e) 事業全体の評価としてセミナー参加者の生活習慣病の予防と改善方法の理解度を調査するために、○×で応える形式の簡単なテストをセミナー参加者100名に実施した。結果は83．3％の正解率を得ることが出来た。

栄養改善セミナー

栄養改善セミナー

回数	日付	対象地区	参加人数	内容
第1回	4月 5月 6月	グループ1 グループ2 グループ3	41人 58人 48人	ベースライン調査を実施
第2回	11月	グループ1 グループ2 グループ3	35人 47人 39人	「肥満予防：健康状態を知ろう」 健康調査
第3回	11月	グループ1 グループ2 グループ3	16人 9人 15人	「おから料理教室」 フライドライス 卵炒め
第4回	12月	グループ1 グループ2 グループ3	34人 58人 42人	「高血圧」
第5回	12月	グループ1 グループ2	11人 9人	「おから料理教室」 肉団子

		グループ3	12人	ナスとピーマンの炒め物
第6回	1月	グループ1 グループ2 グループ3	39人 41人 41人	「糖尿病」 健康調査
第7回	1月	グループ1 グループ2 グループ3	9人 6人 6人	「おから料理教室」 お好み焼き トマトと卵の炒め物
第8回	2月	グループ1 グループ2 グループ3	40人 44人 44人	「復習」
第9回	2月	グループ1 グループ2 グループ3	6人 9人 11人	「おから料理教室」 コロッケ 人参の炒め物
第10回	2月・3月	グループ1 グループ2 グループ3	32人 42人 26人	理解度テスト エンドライン調査 健康調査

健康調査

健康調査

成果

定期的な健康診断をすることにより、自らの健康状態を認識し、健康に関心を持ってもらうことができた。

課題

母親たちはおからが栄養価の高い食材であることを理解することはできたたが、家庭での食事に「おから食」を取り入れるにはまだ至っていない。おからの効用を繰り返し伝えていくとともに、おから料理をカンボジア人の身近な食物として浸透させていきたい。

(2) 保健衛生セミナー

住民たちの住居前で少人数のグループを対象に10分から15分の保健衛生セミナーを実施した。住民

たちが住んでいる住居に出向くことによって、家事や育児に忙しい母親たちが参加することができた。

回数	日付	対象地区	参加人数	内容
第1回	6月 7月 8月	グループ3 グループ2 グループ1	37人 60人 44人	妊娠

保健衛生セミナー

保健衛生セミナー

(3) 人材の育成・研修

セミナーを実施するために必要な人材の育成を目的にスタッフたちが次の研修に参加した。

日付	団体	内容
7月12日	医療 NGO ジャパンハーツ	糖尿病・高血圧・心臓病・脂質異常症 血圧の測り方

血圧の測り方研修

スタッフたちへの生活習慣病ワークショップ

③　託児所

朝6時30分から夕方18時30分まで「母親センター」の2階と「新託児所」を利用し、3クラスに分けて2才～5才児計75名の受け入れをした。託児所の子どもたちは、午前中は隣接する「子どもの家」で学び、給食後には託児所に移動して午睡、水浴び、給食、授業、おやつ、塗り絵や工作遊びをして過ごした。

保育および授業内容：基本的なクメール語の読み書き、歌、絵本の読み聞かせや塗り絵、工作遊び。

スタッフの配置：2 才児クラス 3 名、3～5 才児　先生 2 名、補助 2 名。計 7 名。

成果

子どもを預かることで母親が安心して働きにいけるようになった。また子どもたちは食事前の石鹸での手洗いが習慣づいてきた。2才児の預かりも始めたことで安心して働ける母親が増えた。

課題

母親が安心して預けられる環境づくりと、子どもたちの情操を豊かにしていくための教材作りや指導の技術・質の向上を目指していきたい。

水遊びの時間

遊具での遊びの時間

4）その他

a）月1回開催される「レイミッショナリーの集い」に出席

b）カトリックNGO会議に出席

c）カンボジアで活動する修道会、カトリックNGOとの連携

d）プノンペン教区主催の行事、ミサに出席

e）公立小学校、教育省、NGOなど地域機関との連携

f）「子どもの家」クメール正月ゲーム大会、「子どもの家」プチュンバン祭、「子どもの家」クリスマス会実施

g）「子どもの家」の子どもたちとプノンペン市内の公園に遠足

h）大阪教区への助成金申請、及び運用と決算報告（4月）

i）海外邦人宣教者活動援助後援会（JOMAS）への助成金申請、及び運用と決算報告（4月）

j）今井基金への助成金運用と活動報告金申請(11月)

k）カンボジア教育省への月間活動報告、決算報告（4月、7月、10月、1月）

l) 外務省からの活動合意書取得のための書類作成（11月）
m) 外務省への年間報告及び助成金報告書（2 月）
n) JLMM カンボジアスタッフ定期ミーティング
o) 21組のべ195名のステンミエンチャイ訪問・見学の受け入れ

Ⅱ プルサート州コンポンルアン水上村　生活向上支援

1. 対象地域と地域概要

プルサート州コンポンルアン水上村

水上村コンポンルアンは、カンボジアのほぼ中央にあるトンレサップ湖上に位置している。この村では1，100世帯、5，000人の人々が船の家で生活しており、約 60%がベトナム人である。住民は主に漁業で生計を立てているが、貧困世帯が多く生活全般に様々な問題を抱えている。住民は生活用水として湖の水をそのまま利用しているが、生活廃水や家畜の排泄物、ゴミなども全て湖に廃棄しているため、水質汚染は著しく健康に及ぼす影響も大きい。また、多くのベトナム人はカンボジア語が話せず、国籍を持たないといった理由で公共機関へアクセスすることができず、カンボジア社会から孤立した状態になっている。医療機関へかかることができないために簡単な病気でも死に至るケースが多い。子どもは言葉の問題から公立の学校へ通えないなどの多くの問題を抱えている。

2001年から JLMM カンボジアと住民の協力のもと、水上教室を設置し、識字教育、住民によって組織された基本的な保健サービスの管理、運営を行ってきた。

2014年に派遣された井手司は7月27日に任期終了し、2019年8月26日に帰国した。これまで井手が担ってきた活動については、バッタンバン教区の業務として引き継がれた。

2. 活動

1） 保健衛生プログラム

① 水浴びプログラム

週1回の水浴びプログラムを継続実施した。湿疹用石鹸、虱用石鹸を使用し、家でも使えるように一つ500リエル（約10円）で販売した。衛生指導や栄養指導も合わせて行い、健康状態の把握、爪切り、耳掃除、薬の塗布などのケアも継続的に行った。水浴びプログラムに参加する子ども達は平均して1回に10人程度である。

成果

水浴びプログラムに通ってくる子ども達の湿疹や虱などの症状は、年々減少している。

識字教室の先生に加え、識字教室の卒業生もこの活動を手伝ってくれるようになっており、協力の輪が広がっている。また定期的に歯磨き指導、手洗い指導等も実施している。

課題

学校に通う子ども達の年齢層が上がり、10歳以上の子ども達、特に女の子への水浴びを行う事が出来ない。そのため、小さな子ども達への水浴びの手伝いや、虱取り等を行っている。

歯磨き指導の様子

歯磨き指導の様子

② 病人支援プログラム

病院受診のための交通費支援、病院や病人受け入れ施設までの付き添い、軽症のケースに対しての健康相談や、健康管理などの教育・指導、食費の支援などを行った。交通費支援、病人訪問などに関しては、水上村教会の病人支援グループと協働している。またスペインやベトナムからの医師による村人への無料診断を行う事により、普段病院に行けない村人への診察を行う事が出来た。

関わった病人は、糖尿病、百日咳、胃の検査・成長痛による膝の痛み、心臓病、喘息、足の怪我、下痢、気管支炎など様々であった。病人支援は 12 名、14 件ケースであった。

成果

支援をすることで安心して病院に行くことができた。水上村の住人にどのような病気が多いか把握することができた。

課題

利用者が教会関係者に偏ってきているので、村の住人も利用できるように教会が地域一般の方々を対象に病人支援をしている事を地域に広くアピールするとともに、協力者も募っていきたい。

ベトナム人医師による無料診断

ベトナム人医師による無料診断

③ ホームケアプログラム

主に病人支援で関わった病人（退院した病人など）の家庭を訪問し、在宅での簡単なケアや処置、栄養剤の支援を実施。また本人や家族に対し健康指導や栄養指導、相談活動なども合わせて行った。

成果

病院に行く時だけの支援ではなく、家庭での継続的な支援が可能となった。

病気が完治し利用者の元気な姿を見ることが出来た。また、コンポンルアン水上村クリニックの医師と連携して、村人への支援を行う事ができた。

課題

日々移動を繰り返す水上村では病人の家の位置を把握することが難しく、訪問できないこともあった。今後は病人との関係を密にし、訪問を続けられるようにしたい。

水上村クリニックの医師の皆さん

神父様との家庭訪問

2） 母子保健に関する活動

月に1回午前9時から11時までの2時間、妊婦や乳幼児へのケア（コンポンルアン保健センターで受けられるサービスと同様のサービス）のため、同センターの産婦人科医に依頼し予防接種及び妊婦への教育ワークショップを行った。母乳不足の場合は粉ミルクを支援。

また、患者がクリニックを訪れやすくするために、カンボジア語からベトナム語への通訳者を雇用した。より多くの人々に利用してもらうため、予防接種及び妊婦への教育ワークショップ実施前に村全体で告知を行った。

成果

クメール語（カンボジア語）に不安を抱くベトナム人住民も安心して予防接種を受けることができた。

教育ワークショップによって妊娠期間、出産に対する不安を軽減することができた。

妊婦同士、お母さん同士のコミュニケーションの場を提供することができた。

課題

教会の位置が村の外れに位置している時は、教会から遠くに住む村人が、教会に診察に来ることが難しくなっている。

母子保健プログラム　ワークショップ

診察を受ける妊婦

3）　識字教育プログラム

教会が運営する識字教室「マリアーノ学校」では、ベトナム人の子ども達にカンボジア語とベトナム語の勉強を無料で教えている。JLMM カンボジアは、その学校のカリキュラム準備、教材の支援などを行った。2019年8月（JLMM による派遣終了）の時点では、カンボジア人先生2名、ベトナム人先生1名の計3名がカンボジア語の授業を行っている。

授業は午前カンボジア語が2クラス。また午後ベトナム人の先生1名がベトナム語の授業を行った。通学する生徒数は1年平均して午前40名、午後40名程度である。2005 年から継続している通学船による子どもの送迎も実施した。先生とスタッフを含めたミーティングを行い、行事の打ち合わせやカリキュラムの準備や指導力の向上に努めた。今年度も年中行事（卒業旅行、クリスマス会等）を先生、生徒と共に準備し、行うことが出来た。

成果

ベトナムへ移住している家族が多いため、学校へ通って来る子ども達の数は減少している。しかし先生達が子ども達の家庭環境の把握や、子ども達との交流が出来ている為、学校へ通う子ども達の出席率は良くなっている。

課題

子どもの数は、減ってきているが、子どもの年齢、習熟度に大きな開きがあるため、一つのクラスの中で、幾つかのカリキュラムの準備が必要である。

クメール語教室の様子

ベトナム語教室の様子

4） 栄養改善プログラム

2005年2月より始まった栄養改善プログラムを今年度も継続して実施。週一回の水浴びプログラムの前、栄養価の高い食事（お粥、豆乳、バナナの甘味）を提供し合わせて栄養指導を行った。参加人数は1回平均 40 名であった。

成果

栄養価の高い食事を提供できたとともに、子ども達にとって週に一度の楽しみを提供することができた。

課題

栄養指導に関しては識字教室の先生に一任していたが、結果、内容が単調になってしまった。説明しやすいように何種類か教材を用意するなどしていきたい。

栄養価の高い　お粥

美味しく食べる子ども達

5） 奨学金支援（里親制度）

2019年度は日本の里親の方からの支援により大学生1名の里子が奨学金を受けた。里子の大学生はバッタンバン市内のバッタンバン教区が運営する寮で生活しながら学校へ通っている

成果

里子とは、継続的に訪問、連絡を取り合うことで、状況を把握することができている。

課題

ソパール神父の運営する学生寮は、新入生の募集を中止している。里子は今年大学卒業予定で、卒業後は奨学金の支援が終了するため、コンポンルアン水上村での奨学金支援を今後どのように行うのか同神父とも協議していきたい。

6） 公立小学校との連携

マリアーノ学校の卒業生が小学校に入学した後も、勉学を順調に続けることができるように、公立小学校との連携を図った。通学船による子どもたちの公立小学校への送迎は 2012 年5月まで実施していたが、通学船の運転手が確保できないため、保留となっている。子ども達は親から交通費をもらい、一般の交通船に乗って小学校に通学している。

成果

通学船がなくても家族の出費により子ども達の数人は通学することができた。

課題

マリアーノ学校の卒業生が公立小学校の授業についていけず、中途退学する生徒がいるので、マリアーノ学校卒業生へのフォローが必要である。

7） 浄水プロジェクト

2007年4月より湖の水を浄化して住民に安価で販売するプロジェクトを実施。2010年度から運営管理を現地教会に委託した。JLMM カンボジアは、その運営に協力している。

成果

安価で安全な浄水を提供する事によって水上村の住民の衛生状態が向上した。

課題

年々村人による需要が増え、乾季には供給が追いつかないほどになっている。供給量増加に向けた取り組みが必要である。また、浄水装置が設置され10年が経過したため、修理の必要な場所が増えてきている。教会のメンバーとも話し合い、浄水装置を維持できるようにしていきたい。

浄水装置

村人が水を買いにくる様子

8） 青年活動

教会の青年たちが組織する青年会の活動に協力した。具体的な活動は、ミサ奉仕、子ども達の歌の練習、病人訪問、お葬式への参加など。その活動にかかる費用の一部を支援した。

成果

青年活動だけではなく、クリスマスや復活祭など教会や JLMM が行う諸行事にも協力が得られた。また、プルサート教会から韓国人のシスターが来られて、聖歌の指導を行ってくれている。

ミサ前の歌の練習

洗礼式

9） その他

a）カンボジアで活動する修道会、カトリック NGO との連携

b）「カンボジア福祉基金藤沢」の運用

c）水上公園の管理

d）コンポンルアン教会担当司祭及び教会リーダーグループとの定期ミーティング

e）公立小学校、教育省、警察、漁業局などをはじめとする地域機関との連携

f）日本や他の外国からなどの訪問者の受け入れ

g）各教会・個人へ向けた毎月の活動・会計報告

h）日本からの支援物資の配給

i）海外宣教者を支援する会へ支援申請（教会、学校改修）

j）ベトナムからの医師、医学生の受け入れ（7 月）

k）韓国からの医師団の受け入れ（7 月）

l）スペイン人大学生による 4 日間のサマーキャンプの実施(8 月）

m）JLMM カンボジアスタッフ定期的ミーティング

n）スタディツアーの受け入れ

Ⅲ その他（JLMMカンボジアとしての活動）

1） スタディツアー・ボランティア・活動地見学

次の日程で JLMM 関連カンボジアスタディツアーの受け入れを行った。

2019年7月27日～8月3日	上智福岡高等学校・スタディツアー
2019年8月6日　～8月12日	JLMM 夏のカンボジアツアー
2019年8月19日～8月26日	イエズス会4校合同ツアー

2） 日本の修道会との連携

「ショファイユの幼きイエズス修道会カンボジア共同体」、及びオー村で活動をする漆原恭子さんと活動や事務に関するミーティングを実施。査証手続きをサポートした。

3） ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバンの支援

女性自立に向けた活動を行う現地 NGO「ラチャナ・ハンディクラフト・バッタンバン」の商品をバザー用、オーダー受注、東京事務局への発送作業等を行った。

4） 東京事務局との連絡調整

2019年12月16日～20日　　STM活動のローカル化のためのミーティング

5） 黙想会・祈りの集い

定期的な祈りの集い及び活動報告を行った。

6） 一時帰国

次のとおり一時帰国した。

浅野美幸　　2019年9月9日～10月26日

洞江有実子　　2019年11月1日～11月30日

7） 一時帰国報告会

一時帰国の時期に合わせ、各地で報告会を実施した。

（「11. 報告会・説明会・講演」で後述）

浅野美幸

2019年9月12日　　海外邦人宣教者活動援助後援会（JOMAS）（フランシスコ会聖ヨゼフ修道院・東京）

2019年9月22日　　カトリック菊名教会

2019年9月28日　　Kids & Smile（イグナチオ教会信徒会館）

2019年10月16日　　芝浦工業大学　生命倫理にて活動報告（大宮キャンパス）

2019年10月18日　　防府暁の星幼稚園　幼児と保護者対象

2019年10月19日　　山口天使幼稚園土曜学校　子どもたち対象

2019年10月20日　　山口ザビエル教会

洞江有実子

2019年11月10日　　カトリック徳田教会

2019年11月17日　　カトリック松木町教会

2019年11月20日　　桜の聖母学院高等学校

2019年11月27日　　星美学園短期大学

3．調査・調整活動

(1) カンボジア

JLMM カンボジアを訪ねステンミエンチャイ地区での活動支援、コンポンルアンでの活動の視察、調整をスタディツアー等も兼ねて行った。

2019年7月27日～8月3日	漆原、辻　ステンミエンチャイ支援・コンポンルアン視察
2019年8月6日　～8月12日	漆原、辻　ステンミエンチャイ支援・コンポンルアン視察
2019年8月19日～8月26日	漆原、辻　ステンミエンチャイ支援・コンポンルアン視察
2019年12月16日～20日	松村代表理事、漆原、辻　STM活動のローカル化のためのミーティング

4．研修

今年度は研修を実施しなかった。

5．派遣

今年度は派遣を行わなかった。

6．派遣候補者の募集と選考

2020年度派遣に向けた派遣候補者の募集を2019年8月1日より開始し、募集期間を延長し11月30日まで行った。

選考には、6名の志願があり、全員を派遣候補者とした。

7．団体連携・協力

(1) 特定非営利活動法人 AFMET の運営協力

特定非営利活動法人 AFMET の運営に、事務局職員金山重之と漆原比呂志を派遣し協力した。

AFMET 理事会	2019年4月11日、7月5日、9月13日、12月16日、2020年2月4日
AFMET 総会	2020年3月22日
イベント	2019年5月18日 東ティモールフェスタ2019（上智大学・四谷キャンパス） 2019年11月17日 講演会（カトリック厚木教会）

(2) カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）の運営協力

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援に向け、2011年4月24日に開設されたカトリック東京ボランティアセンター(CTVC)の活動を支援した。

(3)カリタスジャパンの活動への協力

2011 年の東日本大震災、2016 年の熊本地震に際してカリタスジャパンの被災地緊急支援に JLMM 事務局が協力してきた経緯から、今後日本各地で起こりうる大災害において迅速に支援体制を構築するためのサポートを行った。カリタスジャパンする「災害対応マニュアル」の編集に協力した。

また、カリタス援助部会委員として辻明美を派遣した。

(4)学校連携・協力

横浜雙葉高等学校2年「総合学習の時間」の NGO 訪問で生徒グループが来所し、活動紹介を行い、NGO や国際協力に関する生徒からの質問に応えた。(2019年7月 24 日)

(5)NGO 連携・協力

JOMAS(海外邦人宣教者活動援助後援会)3年間の助成事業の 2 年目を実施中。

8. ゴスペル

派遣地での派遣者と現地の方々との「つながり」と同様、日本国内においても「つながり」をもち、連帯していくことを目指し、2007年度創立25周年記念式典に向け結成したゴスペルクワイアを再結成。継続して活動を行った。

指導に布施多真美さんを迎え、月2～3回程度の練習を通じ、自分達らしいゴスペルクワイアを目指した。

練習会場:六本木フランシスカン・チャペルセンター聖堂ほか

練習日: 2019年 4/11、4/25、5/9、5/16、6/6、6/20、7/4、7/20、7/25、8/8、8/22、
9/5、9/19、10/10、10/30、11/17、11/28、12/5、12/12
2020年 1/16、1/23、2/6、2/20

コンサート/出演

1) 被災地復興支援行事

日時:2019年12月7日

会場:福島県南相馬市原町区 カリタス南相馬餅つき大会

カリタス南相馬餅つき大会

9．海外ボランティア制度

キリスト教信徒ではない、もしくは短い期間でも派遣を希望する方に向け、2012年度から新たな試みとして、フェローズ制度を設置し試行的に実施した。

2013年度からは名称を「海外ボランティア制度」に改め参加者を募集したが、希望者がなかったため実施しなかった。

10．広報

（1）ミッション（ニュースレター）発行　他

ミッション№183～187の計5号を以下のとおり発行した。

№	発行日	部数	内容
№188	2019年7月31日	3,000 部	・新顧問司教就任のごあいさつ（山野内倫昭司教） ・団体名変更のお知らせ ・カンボジアからの手紙（井手司） ・カンボジアからの手紙（洞江有実子） ・書き損じはがきご支援のお願い ・新企画 !!「Cinema Missio」好評開催中 ・「毎日のミサ」用カバー大好評販売中 ・「Mission」発行回数変更のお知らせ
№189	2019年11月30日	3,000 部	・カンボジアからの手紙『派遣を終えて』（井手司） ・『毎日のミサカバー』大好評発売中！ ・書き損じはがきご支援のお願い ・カンボジアからの手紙（洞江有実子） ・カンボジアスタディツアー参加者の声 ・春のスタディツアー募集のお知らせ ・クリスマス募金のお願い
№190	2020年2月29日	3,000 部	・カンボジアからの手紙（浅野美幸） ・紹介します！ともに働く仲間たち（カンボジア） ・書き損じはがきご支援のお願い ・カンボジアからの手紙（洞江有実子） ・販売サポーター大募集！のお知らせ ・イースター募金のお願い

（2）広告掲載等

カトリック新聞におおむね月1回、年22回広告を掲載した。

2019年

4月21日	2段5cm	夏のカンボジアスタディツアー
4月28日	2段5cm	夏のカンボジアスタディツアー
5月19日	2段5cm	夏のカンボジアスタディツアー
5月26日	2段5cm	夏のカンボジアスタディツアー
6月16日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
7月21日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
8月18日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
8月25日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
9月　1日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
9月　8日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
9月15日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
9月29日	3段1／2	ともに生きる人　募集中！（世界難民移住移動者の日）
10月　6日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
10月13日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
10月20日	2段5cm	ともに生きる人　募集中！
11月17日	2段5cm	クリスマス募金
12月15日	2段5cm	クリスマス募金
12月22日	2段5cm	春のカンボジアスタディツアー

2020年

1月26日	2段5cm	春のカンボジアスタディツアー
2月16日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
3月15日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください
3月29日	2段5cm	JLMM の活動にご支援ください

（3）チラシ配布

1）広報用リーフレット作成配布

JLMM 活動紹介リーフレット日本語版（カラー、A4版三つ折）を作製配布した。

作製部数　　400部　2019年5月（2019年度日本語版）

1，000部　2019年9月（2019年度日本語版）

2）シネマ・ミシオ広報チラシ作成配布

シネマ・ミシオの広報用チラシ（カラー、A4版）を作成し配布した。

シネマ・ミシオ　　5，000部作成（2019年4月）

（4）新聞・雑誌記事掲載

きずな（日本カトリック海外宣教者を支援する会発行）

№147（2019年6月1日）	水上村のご報告（漆原比呂志）
№148（2019年9月1日）	学校・運動公園の修理（井手司）
№149（2019年12月1日）	子ども達教育や健康を充実させるために（浅野美幸）

11. 報告会・説明会・講演

活動報告会を次のとおり行った。（一部再掲）

また、本年度も小教区でのミサ後すぐの時間帯を利用し、短い時間で活動紹介とラチャナ（カンボジアハンディクラフト）の紹介を同時に行うミニ報告会を行った。

カンボジア報告会 （再掲）

2019年 9月 8日	横浜教区カトリック藤沢教会	井手司
2019年 9月14日	幼きイエス会ニコラバレハウス	井手司
2019年 9月22日	横浜教区カトリック菊名教会	浅野美幸
2019年 9月22日	福岡教区カトリック久留米教会	井手司
2019年10月20日	広島教区カトリック山口教会	浅野美幸
2019年11月10日	東京教区カトリック徳田教会	洞江有実子
2019年11月17日	仙台教区カトリック松木町教会	洞江有実子

JLMM活動紹介とラチャナ（カンボジアハンディクラフト）紹介

2019年 7月21日	横浜教区カトリック中和田教会	
2019年 9月 8日	横浜教区カトリック藤沢教会	
2018年 3月4日	横浜教区カトリック片瀬教会	
2019年12月 1日	横浜教区カトリック由比ガ浜教会	Bit主催 チャリティーコンサート
2019年11月 2日～3日	フランシスカン・チャペルセンター	
2019年11月10日	東京教区カトリック徳田教会	
2020年 1月12日	東京教区カトリック成城教会	
2020年 2月 9日	東京教区カトリック西千葉教会	

事務局訪問

2019年 9月11日	中央大学人文社会学科学生グループ事務局訪問

12. 主催イベント

（1）シネマ・ミシオ

世界のできごとをもっと知りたい、伝えたいとして、UNITED PEOPLE と契約し、良質のドキュメンタリー映

画の上映を行った。

月に一度金曜日に2回上映。映画を通じて世界のできごとを伝えるとともに、JLMMの周知をはかった。

期間:2019年4月～2020年2月　月1回金曜日　14時～／18時30分～

会場:フランシスコ会ヨゼフ修道院1階ホール

上映映画

回数	日付	上映内容
1	2019年4月26日(金)	女を修理する男
2	2019年5月31日(金)	ナディアの誓い　-On Her Shoulders-
3	2019年6月21日(金)	それでも僕は帰る　～シリア　若者たちが求め続けたふるさと～
4	2019年7月19日(金)	コスタリカの奇跡　～積極的平和国家のつくり方～
5	2019年9月20日(金)	ザ・デー・アフター・ピース
6	2019年10月18日(金)	ZAN　～ジュゴンが姿を見せるとき～
7	2019年11月29日(金)	ワンダーランド北朝鮮
8	2019年12月13日(金)	タシちゃんと僧侶／Happy
9	2020年1月24日(金)	バレンタイン一揆
10	2020年2月21日(金)	SONITA
11	2020年3月13日(金)	ポバティー・インク　～あなたの寄付の不都合な真実～ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止

13. バザー・イベント等への参加・企画協力

今年度は、昨年に引き続き日本最大のカンボジアイベントである「カンボジアフェスティバル」に旅行会社ピースインツアーとのタイアップにより出展した。また国際協力の日に合わせお台場公園で開催される「グローバルフェスタ」にも出展。これらにより多くの方に JLMM の活動やカンボジアのハンディクラフトを紹介することができた。

2019年5月3日～4日　　カンボジアフェスティバル2019(東京・代々木公園イベント広場)
2019年9月28日～29日　　グローバルフェスタ(お台場公園)

その他のイベント
2019年　6月　1日　　聖心女子専門学校三光会バザー出展
2019年　6月　9日　　東京教区麻布教会　バザー出展
2019年10月20日　　大阪教区「国際協力の日」 ブース出展
2019年10月27日　　東京教区三軒茶屋教会　バザー出展
2019年11月16日　　All For One コンサート
2019年12月1日　　bit コンサート　ラチャナ紹介（再掲）
2019年12月3日　　ほしの家コンサート　ラチャナ紹介

14. ファンドレイジング

外務省日本NGO連携無償資金協力

4月 2 日に外務省で開催された説明会に参加した。申請は行わなかった。

カンボジア福祉基金藤沢

6月13日、コンポンルアンへの派遣休止に伴う報告と打ち合わせを行った。

海外邦人宣教者活動援助後援会（JOMAS）委員会

JOMAS にカンボジアステンミエンチャイ地区での活動（託児所人件費と給食費）の助成を受け、3年間の助成の2年目のプロジェクトを実施した。

2018年9月 12日　　カンボジア活動プレゼンテーション
（フランシスカン・チャペルセンター、浅野、漆原、辻）

公益信託　今井海外協力基金

公益信託　今井海外協力基金に、カンボジアステンミエンチャイ地区での活動「コミュニティヘルスワーカーによる生活習慣病の予防と改善のための「おから」を使った栄養食の開発と普及プロジェクト」（おからで元気プロジェクト）に助成を受け、1年間のプロジェクトを実施した。

15. OB・OG 会

今年度は実施されなかった。

16. スタディツアー

一般公募及び諸団体・学校からの依頼に応じ、スタディツアーの企画を行った。また今年度も旅行会社である株式会社ピースインツアーと提携することで、実施や手配、安全面に配慮した。

JLMM春のカンボジアスタディツアー （一般公募）

2019年3月26日～4月2日　　参加者10名
行程：プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

上智福岡高等学校　スタディツアー

2019年7月27日～8月4日　高校2,3年生13名と教職員1名が参加
行程：プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

JLMM夏のカンボジアスタディツアー （一般公募）

2019年8月6日～8月13日　　参加者11名
行程：プノンペン→コンポンルアン→シェムリアップ

イエズス会 4 校「宗教倫理研修会ツアー」

2019年8月19日～8月26日

栄光、六甲、広島学院、上智福岡の各イエズス会高校教員および上智大学職員 11 名が参加。

夏のカンボジアスタディツアー

上智福岡高校カンボジアスタディツアー

17. スタッフ研修

スタッフ研修は実施されなかった。

18. 会議

(1)総会

開催回	開催日	会場	議　　題
定時	2019年 6月24日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・役員の選任について ・2018年度事業報告(案)及び収支決算(案)について ・定款改正について

(2)理事会

開催回	開催日	会場	議　　題
第1回	2019年 5月30日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・各国・国内活動状況について ・2018年度第4回理事会議事録確認と署名 ・総会付議事項について 　2018年度事業報告(案)及び収支決算(案)について ・2019年事業計画(案)並びに収支予算(案)について

第2回	2019年 9月18日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・各国・国内活動状況について ・2019年度第1回理事会議事録確認と署名 ・2020年度派遣候補者募集について
第3回	2019年 12月9日	フランシスコ会 聖ヨゼフ修道院 2階会議室	・各国・国内活動状況について ・来年度派遣候補者研修について ・2019年度第2回理事会議事録の確認と署名
第4回	2020年 3月9日		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止

19. 正会員・理事・顧問司教

正会員は次のとおりである。当会の正会員は一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に規定されている社員である。

	氏　名	備　考
1	緒方　真理子	
2	岸野　眞理子	
3	眞鍋　まり	
4	大垣　俊朗	
5	漆原　比呂志	
6	辻　明美	
7	金山　重之	
8	小林　誠	
9	渡邉　怜子	
10	松村　繁彦	

役員構成は次のとおりである。

理事の任期は2019年5月29日から2021年度最終総会まで、監事の任期は2019年5月29日から2023年度最終総会までとなる。

顧問司教は諏訪榮治郎高松教区司教である。

	役　職	氏　名	所　属　等	備考
1	代表理事	松村　繁彦	カトリック香里教会主任司祭	
2	理事	浜崎　眞実	カトリック横須賀三笠教会主任司祭	指導司祭
3	理事	小林　誠	法務省多摩少年院(医師)	
4	理事	高橋　睦子	幼きイエス会	研修担当者

5	理事	村上　芳隆	フランシスコ会管区長	
6	理事	渡邉　怜子	日本カトリック信徒宣教者会・OG	
7	理事	漆原　比呂志	JLMM 事務局 / OB	事務局長
1	監事	徳　修	税理士/心のともしび責任役員	
2	監事	品田　典子	日本カトリック学校連合会	

品田監事による活動の監査を実施した。
2020年6月24日

徳監事による会計監査を実施した。
2020年6月19日

20. 加盟団体等

2020年3月31日現在、当会が所属する団体等は次のとおりである。
日本カトリック司教協議会　公認団体　（2002年5月9日加盟）
特定非営利活動法人国際協力NGOセンター（JANIC）正会員　（2009年10月23日承認）

貸　借　対　照　表

一般社団法人 ＪＬＭＭ

2020年3月31日現在

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　資産の部			
１流動資産			
預金	9,740,375	3,827,550	5,912,825
立替金	6,882	0	6,882
前払費用	5,744	1,323	4,421
流動資産合計	9,753,001	3,828,873	5,924,128
２固定資産			
什器備品	79,439	110,330	△ 30,891
電話加入権	74,984	74,984	0
固定資産合計	154,423	185,314	△ 30,891
資産合計	9,907,424	4,014,187	5,893,237
Ⅱ　負債の部			
１　流動負債			
未払金		0	0
預り金	125,832	250,068	△ 124,236
流動負債合計	125,832	250,068	△ 124,236
負債合計	125,832	250,068	△ 124,236
Ⅲ　正味財産の部			
正味財産合計	9,781,592	3,764,119	6,017,473
負債及び正味財産合計	9,907,424	4,014,187	5,893,237

正味財産増減計算書

一般社団法人　　ＪＬＭＭ

2019年4月1日から2020年3月31日まで

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増減
１経常増減の部			
(1)経常収益			
受取会費	960,000	1,415,000	△ 455,000
受取寄付金	24,057,740	17,056,763	7,000,977
受取助成金等	998,000	0	998,000
受取利息	83	191	△ 108
経常収益計	26,015,823	18,471,954	7,543,869
(2)経常費用			
事業費			
研修費	365,803	2,461,389	△ 2,095,586
派遣活動費	7,080,236	7,391,998	△ 311,762
調査研究費	3,807,119	4,398,835	△ 591,716
広報活動費	1,085,422	1,617,178	△ 531,756
行事費	1,259,038	211,386	1,047,652
事業費計	13,597,618	16,080,786	△ 2,483,168
管理費			
人件費	4,824,568	4,867,296	△ 42,728
事務管理費	1,545,273	1,433,982	111,291
減価償却費	30,891	57,710	
管理費計	6,400,732	6,358,988	68,563
経常費用計	19,998,350	22,439,774	△ 2,441,424
当期経常増減額	6,017,473	△ 3,967,820	9,985,293
２　経常外増減の部			
(1)経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
固定資産除却損	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期正味財産増減額	6,017,473	△ 3,967,820	
正味財産期首残高	3,764,119	7,731,939	
正味財産期末残高	9,781,592	3,764,119	

計算書類に対する注記

１重要な会計方針

（１）固定資産の減価償却について
有形固定資産の減価償却は定額法を採用している。

（２）資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収金・未払金、前払金・前受金、立替金・預り金及び前払費用を含めることにしている。なお、当期末残高は２に記載のとおりである。

２次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科　目	前期末残高	当期末残高
預　金	3,827,550	9,740,375
立替金		6,882
前払費用	1,323	5,744
合計	3,828,873	9,753,001
未払金	0	0
預り金	250,068	125,832
合計	250,068	125,832
減価償却費		30,891
次期繰越収支差額	3,578,805	9,596,278

３有形固定資産の取得価額、当期償却額及び当期末残高は、次のとおりである。

科目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	347,502	268,063	79,439
合計	347,502	268,063	79,439

財　産　目　録

2020年3月31日現在

一般社団法人ＪＬＭＭ

（単位：円）

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
（流動資産）			
預　金	普通預金		
	三菱東京ＵＦＪ銀行六本木支店	運転資金として	421,665
	三菱東京ＵＦＪ銀行六本木支店	寄付金等受け入れとして	5,978,137
	郵便振替	寄付金等受け入れとして	3,240,573
	定期預金		
	三菱東京ＵＦＪ銀行六本木支店		100,000
立替金		源泉所得税還付金	6,882
前払費用		労働保険料	5,744
流動資産合計			9,753,001
（固定資産）			
什器備品	パソコン２台	事務局にて使用	79,439
電話加入権	事務局FAX 03-5414-0991		74,984
固定資産合計			154,423
資産合計			9,907,424
（流動負債）			
預り金	社会保険料		125,832
流動負債合計			125,832
負債合計			125,832
正味財産			9,781,592

収支計算書

一般社団法人　ＪＬＭＭ

自2019年4月1日　至2020年3月31日

収入の部　（単位:円）

科目名				19年度予算A	19年度決算B	増減額B-A	増減率Ｂ／Ａ	備考
収入の部			受取会費	1,500,000	960,000	△ 540,000	64.0%	
			受取寄付金	18,000,000	24,057,740	6,057,740	133.7%	
			受取助成金等	998,000	998,000	0	100.0%	今井基金
			受取利息	1,000	83	△ 917	8.3%	
			雑収入	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
	当年度収入合計(A)			20,509,000	26,015,823	5,506,823	126.9%	
収入合計　(B)				20,509,000	26,015,823	5,506,823	126.9%	

支出の部

科目名				19年度予算A	19年度決算B	増減額B-A	増減率Ｂ／Ａ	備考
支出の部	運営費	人件費	1. 人件費　(D)	5,167,000	4,824,568	△ 342,432	93.4%	
			給料手当	4,150,000	3,710,000	△ 440,000	89.4%	1名分
			通勤手当	302,000	304,190	2,190	100.7%	
			退職金	0	0	0		
			法定福利費	708,000	803,209	95,209	113.4%	
			福利厚生費	7,000	7,169	169	102.4%	健康診断
		事務管理費	2. 事務運営費 (E)	1,499,000	1,576,164	77,164	105.1%	
			会議会場費	1,000	0	△ 1,000	0.0%	
			会議食事代	0	1,243	1,243		
			会議旅費交通費	5,000	0	△ 5,000	0.0%	
			電話料	160,000	149,823	△ 10,177	93.6%	
			郵便切手送料	32,000	111,336	79,336	347.9%	
			印刷コピー代	50,000	3,596	△ 46,404	7.2%	
			備品費	0		0		
			旅費交通費	30,000	80,444	50,444	268.1%	
			消耗品費	30,000	25,324	△ 4,676	84.4%	
			リース料	851,000	850,512	△ 488	99.9%	
			支払手数料	70,000	67,455	△ 2,545	96.4%	振替手数料他
			諸会費	45,000	44,050	△ 950	97.9%	司教協議会公認団体,JANIC
			水道光熱費	75,000	84,990	9,990	113.3%	
			租税公課	70,000	110,000	40,000	157.1%	法人都民税・変更登記他
			減価償却費	50,000	30,891	△ 19,109	61.8%	
			慶弔費	20,000	16,500	△ 3,500	82.5%	
			雑費	10,000	0	△ 10,000	0.0%	
	運営費支出合計　(F)=(D)+(E)			6,666,000	6,400,732	△ 265,268	96.0%	
	活動費		研修費	350,000	365,803	15,803	104.5%	
			派遣活動費	8,075,000	7,080,236	△ 994,764	87.7%	職員１名分含む
			調査研究費	4,937,000	3,807,119	△ 1,129,881	77.1%	職員１名分含む
			広報活動費	1,345,000	1,085,422	△ 259,578	80.7%	
			行事費	126,000	1,259,038	1,133,038	999.2%	報告会等
	活動費支出合計　(G)			14,833,000	13,597,618	△ 1,235,382	91.7%	
経常費用計 (H)=(F)+(G)				21,499,000	19,998,350	△ 1,500,650	93.0%	
			その他の繰入金支出	0		0		
	財務支出合計 (I)			0	0	0		
	当年度支出合計 (J)=(H)+(I)			21,499,000	19,998,350	△ 1,500,650	93.0%	
	当期収支差額 (K)=(A)-(J)			△ 990,000	6,017,473	7,007,473	-607.8%	
	前年度繰越金 (L)			3,578,000	3,578,805			
	次期繰越収支差額 (M)=(K)+(L)			2,588,000	9,596,278	7,007,473	370.8%	

監査意見書

一般社団法人ＪＬMM定款第２７条の規定に基づき、２０１９年度における理事の職務執行状況、事業の執行状況並びに財務の状況について、当該年度の通常理事会議事録、活動報告書及び収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録、更にはこの内容を証する関係諸帳簿、証拠書類等を精査したところ、いずれも適正に処理されていると認められた。

２０２０年　６月１９日

一般社団法人ＪＬMM

監　事　（財務）

２０２０年　６月２４日

一般社団法人ＪＬMM

監　事　（事業）　品田典